
電撃の魔術

トレーナー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

電撃の魔術

【Nコード】

N4695BA

【作者名】

トレーナー

【あらすじ】

魔術が存在する世界

記憶喪失で超楽観少年、ライト
そんなライトの戦いが今、始まる！！

第1話

学園入門編

魔導師と学園

ライト「お腹が……へっ………た〜!!」

放浪生活一ヶ月目、それ以前の記憶はない
覚えているのは、自分の名前と言葉だけ

目が覚めた所はこの森の中、旅でもすれば記憶も戻るだろ!、そんな単純な考えで動いているが、未だ森から出られない

ライト「ヤバイ……も、もう…限界………かも……」

それにこの三日間、何も口にしていない
ギュルルルウ〜…

また鳴った、三分に一度のペースで腹が鳴る
足取り重く、フラつきながら、ようやく立っている状況だ

ライト「………んっ? ……んん?」

空腹という名の試練………もがいていた彼にとって“町”ほど心踊るものがあるのだろうか?

ライト「町だ………町だア〜!!」

森から出ると丘の向こうに町が見える
小さな港町、随分とにぎわっている

ライト「食べるぞオウ………お腹いっぱい!!」

うひょ〜!、歓喜の叫び声をあげ、港町の門をくぐる

「おやじさ〜くん！220T、ここに置いてくよ
！！」

「まいど〜！」

テントの様な簡易の店が密集している
商店通り、だ

「そこの少年！」

ライト「？」

ライトは声のした方向を向く

ライト「俺？」

「そうそう！君だよ！君！」

声の主は男だ、多分。マントを身に付け、マスクをかぶっているの
で目しか見えない

ライト「？、なに？」

「随分とやつれているじゃないか？これをお食べ！」

赤い果実を取り出し、ライトに差し出す

ライト「お金、持ってないよ……」

「いいんだよ！どうせ売れ残るんだ…」

ライト「じゃあ、いただきま〜す！…」

シャリッ！とかじる

男はニコニコしている

ライト「うま〜〜い！」

「そうかそうか！じゃあ、これを……」

男は赤い果実を五つほどライトに渡す

ライト「！！こんなに！？いいんスか？」

「ああ、雷鬼よ……旅のご武運を……」

ライト「???」

男はいなくなっている

ライト「あれ？あの人は何？」

テントすら見当たらない

ライト「？まあ、いいや！」

スーッと息を吸う

ライト「ありがとオ〜〜！！！！」

聞いているだろう男に叫ぶ
町の人々は、不思議そうな目でライトを見ている

「フッフ……お互い様です」

男はニヤリと笑う

ライト「さて……どうするか」

行き先に迷う

町人に聞く限り、この町から出ている船に乗ると『プレジアーネ』
という町に着くらしい

ライト「行くか！その町つてのに！！」

船は無料で乗れるらしい

「兄ちゃん！プレジアーネに行く気かい？学園入学なら諦めな！」

船長らしき人が話しかけてくる

ライト「学園？」

船長「なんだ、学園入学希望者じゃなかったか！プレジアーネ学園
つてのは、探検や救助、魔導師退治などを専門に扱う奴の教育機関
だ」

ライト「魔導師？」

また新たな疑問が生まれる

船長「はあ……、兄ちゃん、何も知らないんだな？魔導師つての
は魔術を扱うことができる奴の事さ。」

魔導師退治つてのは、魔術を悪用する魔導師を捕まえる事だ！」

ライト「魔導師に……魔術？」

軽くまとめると、世界には凄い人がいるらしい…

ライト「魔導師に俺もなれるかな！？」

潮風が気持ち良い

そんな話をしている内に『プレジアーネ』に到着！

ライト「よっ！つと！」

ライトは船から港に飛び降り、船長に御礼を言い、歩き出す
町人からの聞き込みで学園の場所は分かっている

ライト「ギルドか……、魔導師か……、面白そう！」

クスクスと笑う

体全体で喜びを表現する
少年の足は迷いを知らず、学園を目指す

第2話

電撃の出会い！（前書き）

世界観なんですが、魔術の世界は少し文明が遅れている、という考えをもっていますか？

しかし、ライト達の世界はケータイ電話や、パソコン、テレビなどあります。

第2話

電撃の出会い！

ライト「……………」

ライトは啞然、それもそのはず
なんせ…道が無い、あるのは大きな湖だけ

ライト「どうしろと……？」

冬後半、こんな時期に湖に入ったら命の危機だ、それに実際危険があるのには変わらない
、現に何か巨大な影がうごめいている

ライト「しゃーない、覚悟決める、か」

ドボン！！

ライトは湖に飛び込む

ライト「ぐぶゅゝ、ぶぶばぼこべびばゝ（うひゃゝ、流石に寒いな）
」

ライトの目と鼻の先を巨大な電気ナマズが、通り過ぎる
ライティナマズという種類です

ライト「ばぶば？ばぼびよばびこぶよこ！？
（なんだ？あの巨大ドジョウ！？）
」

（注・巨大電気ナマズです

ライトは泳ぎだす、が、何かにぶつかる

ライト「げぶぶ！？（なんだ！？）」

少年がぶつかったのは、ライティナマズ

バリバリバリ！！ビリ！バチバチバチ！！

ライティナマズが放った電気がライトを襲う

ライト「ばつぶつばつ！ばびばがごぶぶつかるべー！（はっはっはっ！なかなかの電撃だな！！）」

ライトには効かない、まあ、服は半分焦げたけど……

なぜ効かないのか？本人は自覚^{ライト}していないが、一ヶ月間の放浪生活によって、魔術に必要な、体力、精神力、は、もう十分といっている程高まっていた

もう、ライトの体には無意識に魔力が流れており、雷属性だったため、ライティナマズの電撃が効かない、というわけだ

ライト「びば〜ごべ、ばばがぎよくぶびばっばが〜（いや〜俺、体丈夫になったな〜）」

真っ暗な水中を再び泳ぎだす

ライト「ぶはあっ!!」

水面から顔を出す

気が付くと、陸があり、建物が建っている

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4695ba/>

電撃の魔術

2012年1月14日22時49分発行